

NPO 法人

第65号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1578
TEL 055-288-2345 FAX 055-288-2531 HP <http://ashiyasu.com> Mail afc3193@nus.ne.jp

芦安ファンクラブ会長辞任のご挨拶 花岡利幸

私の南アルプスとの本格的な関わりは昭和 55 年 (1980) に遡ります。

私の専門は土木と観光です。この年、中央道の全線開通を 2 年後に控えて山梨県(当時望月知事)から山梨県観光基本計画策定の依頼を受けました。40 歳の時です。県庁若手職員の協力を得て、研究会を作り、当該計画を策定しました。私の南アルプスとの付き合いの原点はここにあります。

その時の現地での出会いが塩沢久仙さんです。今年で 37 年になります。芦安ファンクラブの設立は平成 11 年(1991)年です。それから平成 28 年(2016)まで 25 年間、会長を務めさせていただきました。長い間、皆様にお世話になりました。心よりお礼申し上げます。

本クラブの発足、活動については拙著『実践・地方都市のまちづくり』技報堂出版 2006 に詳述してありますので、ここでは述べません。知りたい方は芦安山岳館図書館をご覧ください。

ここでは他の事に触れ、辞任のご挨拶とします。

「南アルプスの魅力は何？」と問われて、ファンクラブの皆さんは「貴重な自然と多様性」だと即答するでしょう。しかし、南アルプス地域の住民も、県民も、日本全国の人々も、いわんや世界の人々もほとんどの人がそれを知らないということです。ファンクラブの皆さんは「なぜ？そんなことないでしょう。」と思うかもしれませんが如何でしょうか。

その証拠の一つは、南アルプス地域を訪れる観光客(平成 26 年統計)は山梨県全体の 7.7%、宿泊客では 3.9%しかいないということです。富士山の各々40%、53%と比べると第二の北岳を擁する南アルプスがいかに知られていないかが分かります。

日本の自然は一見どこも同じに見えますから、上に述べた南アルプスの魅力が観光客に分かってもらえていないのです。一般の人々にとって、南アルプスはそこへ行ってみたい魅力のある所ではないのです。こうした南アルプスの評価の実態が真の魅力と異なる事に苦々しく思うのは私だけでしょうか。

この格差を打開するためにファンクラブの皆様がより一層大切になります。最終的な到達は観光まちづくりまで辿る必要がありますが、その前に、南アルプスにだけ眼を向けていると、どうしてもそうなり勝ちになる私たち自身の閉鎖性を打開し、南アルプスを独り占めするような考えを止めて、そこを世界に向け広くオープンにする心を養う必要があります。

そのためにも、南アルプスの貴重な自然と多様性をよく知り、理解すること、そして、それを広く人々に伝える活動をより深めなくてはなりません。その後で、観光まちづくりの認識と実践のステージがやっと始まります。

南アルプスはエコパークとして平成 26 年(2014)にユネスコに登録されました。世界が南アルプスを認めてくれました。これを保全と利用にむすび付けるために、南アルプスを守るという保守性向が勝ちすぎると、トランプ大統領のアメリカ第一主義ではありませんが、結局は自滅に繋がらざるをえません。南アルプス地域にとってまず必要なことは、そのアイデンティティへの誇りを維持しつつ、広く外に向かって開放する地元の意識改革ではないかと思います。

芦安ファンクラブのますますの発展に期待します。皆さんお元気で、ご機嫌よう。

芦安ファンクラブ会長に就任して

塩沢 久仙

平成 11 年 1 月、南アルプスの地元である芦安村の皆さんと、この山々を愛する山梨県在住の有志の皆さんが一堂に会して、日本を代表する山岳地帯である南アルプスの自然保護と適正利用の方策と地元芦安の歴史、文化を学び引き継ぎながら村の活性化を目指すことを目的に、活発な話し合いがもたれました。しかし、議論百出し、短時間ではとても語りきれず、話し合いが終わって帰路についても話題が絶えることはありませんでした。

そこでこのような話し合いを継続し、定期的に持つことによって、南アルプスや地元芦安が光り輝くことを夢見て「芦安ファンクラブ」が設立されました。

以来この目的を達成するために、夜叉神峠を堺に奥山と里山の分科会を設立し、熱心な討議がなされたのです。意見集約の結果、行政と協働し活動を展開してゆくこととなり、その手始めに、自然保護と安全登山を目指して芦安を基地として、甲斐駒ヶ岳のビューポイントである栗沢山で 40 名の参加者を得て第 1 回「芦安登山教室」が開催されました。この登山教室は大変好評で、以来継続して開催され本年で第 45 回を迎え、トータルで 1000 人近くが参加したこととなります。

そのほかにも、学校登山、自然観察会、地域のイベント、高山植物の書籍刊行等、様々な活動の輪が広がっていきました。

そこでさらなる発展を目指して平成 14 年 4 月から特定非営利活動法人「芦安ファンクラブ」に生まれ変わったのです。従来の活動に加えて、南アルプスを訪れる人々の受託事業として「南アルプス芦安山岳館」への事業協力、白根御池小屋、広河原山荘、長衛小屋の 3 つの山小屋を指定管理者として、さらに広河原インフォメーションセンターの業務委託を受け各施設の管理運営を行うこととなりました。

さらに登山道や旧道の整備、各種イベントへ積極的に参加して地域貢献を果しながら、活動期間は 20 年近くになります。

この間、数え上げれば枚挙に暇がない数々の素晴らしい活動が達成できたのも会員諸氏の情熱と自然を愛する心に支えられてきたのだらうと思います。

中でも山梨大学名誉教授の花岡利幸先生には発足以来、会長として常に適切なご指導と叱咤激励をいただきました。

このたびの役員改選で先生の後を引き継ぎますが、会員の皆様の暖かいご支援とご協力に支えいただきながら、「芦安ファンクラブ」がさらに発展することを目指して、精一杯力を注いでゆく所存でありますのでよろしくお願い申し上げます。

しおざわひさのり

塩沢久仙 新会長の紹介

夜叉神峠小屋管理人、広河原山荘管理人を経て、芦安山岳館館長に就任。南アルプスの自然保護や山岳文化の継承のため、講演活動などを行っている。環境省希少動植物種保存推進員としても活動中。

2003 年環境大臣賞受賞

2007 年藍綬褒章受賞

2013 年瑞宝単光章受賞



芦安新緑やまぶき祭報告

史跡めぐり「やまぶきツアー」を終えて

芦安ファンクラブ 杉山啓子

5月14日(日)、芦安小学校校庭において、恒例の「芦安新緑やまぶき祭」が開催されました。祭りでは、芦安ファンクラブが、クライミング体験と市文化財課職員の協力を得て芦安史跡めぐりツアーを担当しました。

今回は、私が担当した史跡めぐり「やまぶきツアー」についてお伝えします。

私たちツアーガイドは、このツアーに参加した人たちに芦安の魅力を伝え、「芦安のファンになる」「芦安を応援する」人口を増やしたいと、思っています。だから、ツアーの準備には十分な時間を充てます。ツアーは、3回運行し、1回40分間という短い時間の中で、数ある史跡の中でも、何を、どんな手法で、どのように魅力的に、興味深く伝えるかを、文化財課の職員と確認しあい、現地を確認し、資料を元に学習を深め、資料の内容が自分のことばに置き換わるまで準備を進めます。

コースは、会場の芦安小学校を出発して、日本で初めてセメントを使用して、大正15年に完成した国登録有形文化財の芦安堰堤⇒武田信虎に仕えた武将名取将監(ナトリショウゲン)の墓⇒曾我物語の虎御前伝説を伝える伊豆神社跡・虎御前の鏡立石と3カ所を巡り、車中では芦安村の誕生から現在までの歴史や、地形、御勅使川の氾濫から暮らしを守ってきた人々の苦勞などを伝えます。

虎御前の鏡立石では、文化財課の職員との掛け合いで、曾我物語が始まります。江戸歌舞伎にはかかせない「曾我もの」。曾我物語の発端は、平安末期、まだ平家が全盛のころの出来事でした。舞台は、伊豆、伊東のあたり・・・と始まります。

曾我物語には、南アルプス市に由来する人が3名登場してきます。芦安で生まれ、兄、曾我十郎の恋人、虎御前が1人目。弟の曾我五郎が将軍頼朝に敵討ちの次第を報告しようと頼朝近くまでつき進んだとき、女装して近づいた頼朝の身辺護衛役を務めていた御所五郎丸(ごしょごろうまる)に取り押さえられます。功をあげたにも関わらず、女装して油断させた行為が武士道に反するとして鎌倉を追放され、野牛島の地に流されたと伝えられています。この御所五郎丸が2人目。この時、五郎の尋問に参列していた幕府の重臣であり楡形地区小笠原に館をかまえた小笠原長清が3人目。

掛け合いに笑いがこぼれ、南アルプス市に由来する人が3人も登場してきたことに驚きの声があがります。

ツアーの最後に、「まだお伝えできない芦安の魅力をお伝えしたいので来年もぜひご参加ください。知らないことを知って楽しいですね」と結び、ツアーを終えました。



第43回 芦安登山教室

～ 鳳凰山(薬師岳・観音岳)～

ご参加いただいたお二方より、素敵な感想をいただきましたのでご紹介します！

北川まり子さん（埼玉県越谷市）

山の友達から、この登山教室の存在を教えてください、是非とも南アルプスに行きたいという思いで、勇気を出して一人で申し込みました。

「案ずるより産むがやすし」のことわざ通りで、歩くペースも早くなく山の花々、木々の話、鳥たちの事など沢山教えていただき、今までは、ただただ上を目指して歩くだけの山行だったのですが、ちょっと歩みを緩くして山を楽しむ歩き方教えて頂きました。

また、今まで何気なく歩いていた山道も、自然を壊している原因の一つである事に、気付かされると言う大事な事も教えて頂きました。



これからは、今回の登山教室で得た知識を思いながら山道を歩いたら、随分と違った歩き方になるのでは、と思っています。

今回は、南アルプスの山、初挑戦でした。まだまだ行きたい山々は、沢山あります。楽しみが増えて嬉しい限りです。

清水洋子さん（東京都調布市）

6月10日～11日 鳳凰山登山教室に参加を致しました。

念願であった山行で天気とスタッフの方に恵まれ最高でした。登山の楽しみ方や注意事項を熱心に教えていただき改めて自然の大事さを感じました。

高低差があったにも関わらず本日は筋肉痛もなく快適に生活しています。

帰り道、参加した方たちと筋肉痛で無様な格好で歩いているだろうと話をしていました。

有難うございました。今後も機会があれば是非参加をしたいと思います。



熱心に聞き入る参加者の皆さん



薬師岳山頂にて



観音岳にて皆さんと

南アルプス開山！

御山開きと案内人一

芦安ファンクラブ 清水 毅

今年も夏山シーズンが幕をあげ、6月24日(土)に北岳などへの登山基地広河原に於いて、南アルプスの開山祭が開催された。行政関係者・登山客らが大勢参加し、シーズンの安全を祈った。



恒例の夜叉神太鼓の演奏やウエストンらの記念碑への献花に続き、蔓払いのセレモニーが行われた。100年前の山の案内人のいでたちをした3人が、斧で蔓を切り開き山へ誘った。案内人は南アルプス市の清水市議が務め、従者の2人は芦安FCの渡辺・堀内の両氏が担当した。



この案内人については思い出すことがある。

2005年6月11日(土)に京王プラザホテルロビーにおいて、南アルプス市の観光キャンペーンの一つとして、実際の開山祭と同じように丸太を組み蔓をかけて、案内人(芦安FC宮下)・従者(渡辺・清水)の3人が昔の案内人の衣装を身につけて蔓払いの神事を行ったことがある。ホテルに出入りする外国人を含めた大勢の見物客にも好評で、英文の蔓払い説明パネルを掲示し、かなりいい宣伝になったようだ。案内人役の宮下重晴さんも今年で芦安FCを退会され、寂しい思いと共に懐かしく思い出される。それから毎年の開山祭には、花岡前会長をはじめFCのメンバーが交替で案内人や従者を務めてきた。

今年の開山祭は例年になく晴れて清々しい風とともにシーズンが始まった。一年間の無事を祈るばかりである。



《 Oike de コンサート 》

南アルプス開山祭が行われた24日(土)、標高2,260mの白根御池小屋では、民族笛奏者の山崎泰之さんのコンサートが開催されました。

夕暮れの小屋前で、小鳥のさえずりをバックに奏でられる篠笛の音色…。とても幻想的な雰囲気にも包まれていました。次回は9/2(土)に開催予定だということです！みなさまぜひ！（編集部）



南アルプス芦安山岳館企画展

「雷鳥 小さな愛おしい命」

明治35年8月 鳥沢まで開通した中央線から下車したイギリス人宣教師のウォルター・ウェストンは諸般の事情があって急なジグザグを登り笹子峠の頂上に立ちました。そして、ここから眼前に広がる甲府盆地を守るように聳える南アルプスの山々に心を奪われ、その素晴らしさを絶賛しています。

それから現在まで、東から南アルプスを訪れる岳人達は列車が初鹿野の集落を過ぎるところから、この絶景に出会える期待で胸を弾ませます。

このような南アルプスには、本邦第2の高峰である北岳と、山脈にその名を冠した赤石岳を南北の盟主として甲斐駒ヶ岳、鳳凰三山、間ノ岳、農鳥岳、仙丈ヶ岳、塩見岳、荒川三山、聖岳、光岳らの標高3000m級の山々が連なり、大きな山容と太古の原生林を縫うように流れる清冽な水が、いたるところに見事な渓谷美を形成し、キタダケソウに代表される、いくつもの世界的に貴重な高山植物が咲き誇り、さらに、ハイマツと共に世界の南限に生きるライチョウやニホンカモシカ等の野生動物たちが遊ぶ、世界でも例をみない、豊で多様性に富んだ生態系が形作られています。また、甲斐駒ヶ岳や鳳凰山に見られる花崗岩の大断層が作るアルプス的景観や、氷河の痕跡であるカール、周氷河地形は地球の歴史を学ぶ上でも大変貴重です。

この様な自然の大切さに気付いた私たちは、近年、積極的な自然保護活動を展開し、その保全に努めています。昨今様々な要因でそのバランスが崩れようとしています。特に目立つのは1955(昭和30)年国の特別天然記念物に指定された氷河時代の生き残りで高山のみに生息する「ライチョウ」が南アルプスではこの30年間で半減したといわれます。

そこで国は絶滅危惧IB類(EN)に引き上げその後、文科省と農水省と共に「種の保存法」に基づく「ライチョウ保護増殖事業計画」を策定し、平成26年4月には第一期保護増殖事業実施計画が作られました。当面5年間におけるライチョウの保全の具体的な目標や事業実施方針と中・長期(10~20年)にも目線をおいた目標が設定され保護増殖事業が動き始めました。

自然保護と安全登山、山岳文化の発掘と研究・継承、それに山を仲立ちとしたさまざまな交流を目的とした、南アルプス芦安山岳館では、「知ることは守ること」を合言葉に北アルプスを中心に活躍する高橋広平氏と、南アルプス市の廣瀬和弘両氏がとらえたライチョウの特徴や生態を紹介し、市民や来館者の皆様の理解をいただき、小さな愛おしい命を持つ「神の鳥」を傷つけることなく次の世代に引き継いで行くための企画展を開催いたします。

(芦安山岳館館長 塩沢久仙)



編集者より、「いちご大福」のおすすめ

雷鳥さんと呼びたくなるような可憐な愛くるしい姿の数々に感動しました。中でもいちご大福と名付けた1枚の写真にたいへん引きつけられました。雪中の真っ白な雷鳥が、ある特別な条件の下で、ほんのりと薄あかく灯りをともしたような姿に変身、なんとも幻想的で愛おしくなる写真です。一見の価値あります。